

「学生による授業評価」のまとめ 2006 年度春学期

刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長

宇田 光

春学期の「学生による授業評価」（以下単に授業評価）は、2006 年 6 月から 7 月にかけて実施されました。ご協力いただいた学生のみなさんと教員のみなさんに、厚く御礼申し上げます。

本年度春学期も、種別、専任・非常勤にかかわらず、1 教員 1 科目を選んで実施する方式が採用されました。そして今回も、ほぼ 100% の実施率を達成することができました。

なお、授業評価の結果は毎回、「『学生による授業評価』のまとめ」冊子に記載されて、各教員に配布されています。また、両キャンパスの教務・学生関係部署窓口、図書館にそれぞれ冊子がそなえられ、学生による閲覧も可能となっています。さらに、授業評価の概要については Web ページ上で開示しています。

1 授業評価の実施方法

対象科目 全教員それぞれの担当科目のうち一科目が選ばれ、実施されました。両キャンパス総計で 525 科目が対象となりました。毎回、膨大な科目すべてを対象として実施するのは困難です。そこで、何年かかけて順次、各教員が担当する科目を一通り評価する方針が採られているのです。

質問紙 設問数は 1 つ減って、18 項目となっています。「シラバスを十分に読んだか」という 4 番目にあった項目を削除しています。よって、前回の授業評価とは、設問番号が一致しませんので、もし昨年と値と比較される場合には、ご注意ください。

設問 1 から 3 までは、学生の授業参加（出席、予習復習など）を問う内容です。設問 4 以降と性質が異なりますので、平均値は分けて算出しています。

これら 18 の設問に対して、次の 5 段階評定尺度を用いて評定してもらいまし

た。「はい(5点)」、「どちらかと言えばはい(4点)」、「どちらとも言えない(3点)」、「どちらかと言えばいいえ(2点)」、「いいえ(1点)」。(なお便宜上、集計結果は、「各設問に対する評定値の算術平均」で表現しています。)

また、裏面は、次のa～dに関して問う自由記述欄となっています。

a この授業の良かった点、評価できること、b この授業の改善すべき点 c 授業環境(照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など)について、d その他

実施・回収手順 公平性・匿名性の観点から、教員は受講生の代表に実施を依頼。その代表者が回収し、まとめて事務担当部署に提出する方式を採っています。

作業手順 2006年6・7月実施 集計作業 教員へ集計結果を通知(7月) 教員から報告書提出(8・9月) FD委員会で結果の分析・検討(10月) 「まとめ」報告書の執筆・発行(11月)

2 集計結果の概要(2007年11月8日現在)

結果の概要は、括弧つきの頁部分に記載されています。

実施率 名古屋 99.76%(409科目)、瀬戸 99.13%(114科目)

報告書提出率 名古屋 98.54%、瀬戸 100.00%

各設問評定値の平均

全設問項目の平均値が4.02(名古屋4.05、瀬戸3.92)、設問04から18までの平均値が4.10(名古屋4.13、瀬戸3.97)となっています。昨年に引き続き、「どちらかと言えば良い」レベルです。

設問ごとに見てみます。昨年の秋学期の結果で特に高い数値となっていた設問は、4番の「開始・終了時刻はきちんと守られていたか」、設問8の「教員の声、音声機器の音はよく聞き取れたか」、などでした。今回も、これらの項目はいずれも比較的高い数字を示しています。(なお、1でも述べたとおり、前回と今回とでは、設問番号がずれていますので、昨年のデータと比較される場合にはご注意ください。)

また、授業に取り組む教員の姿勢に対して、比較的良好な数字が出ています(設

問 15 の「教員に取り組む姿勢に誠実さ・真剣さを感じることができたか」)。教員の多くが、高い意識をもって教育にあたっておられる様子を、ここから読み取ることができます。

一方、設問 3 (予習・復習) が 2.71 で、例によって全設問中で最も低い値です。予習や復習の指導に関しては、引き続き課題が残ります。

満足度 (設問 18)

設問 18 (全体としての満足度) の平均値は、4.02 (名古屋 4.07、瀬戸 3.84) となっています。この項目は、全体を通して重要な項目ですので、最後に、特に図にして示します。図は、満足度の評定値に関する度数を示しています。「はい」(5点)と「どちらかと言えばはい」(4点)とをあわせると 73%であり、全体として満足、あるいはどちらかと言えば満足、という意見が多いと言えます。しかし一方で、いいえ(1点)とどちらかと言えばいいえ(2点)とをあわせると 10%です。こうした不満の声に耳を傾けていかねばなりません。

3 個別教員ごとの結果の見方

括弧のついていない頁番号のところは、個別教員ごとの結果です。本冊子では、原則として 1 頁に 2 件分の結果をまとめて表示しています。

それぞれ、次の要素からなっています。

教員名、科目名・科目コード、登録人数、休講・補講回数、実施率など「実施率」は今回から新たに設けた項目です。ここでいう「実施率」は受講者の「回答率」、マークシートの「回収率」を示します。

レーダーチャート 2 枚

右の図がアンケート提出者全員で集計した結果です。一方、左の図は項目 1 から 3 の評定平均値が 3.0 以上の学生(つまり積極的な態度で授業に臨んだと認められる学生)だけに絞って集計した結果です。

「アンケート結果を踏まえた授業評価」：各教員が今回の結果を踏まえて書いた報告です。自由記述も参照して、この報告を執筆していただきました。(自由記述は膨大な量になりますので、本冊子には記載されていません。)

なお、一部の教員から手書き原稿も頂きましたが、原則としてワープロ入力しました。

4 授業の改善に向けて

授業評価の高い実施率、報告書提出率は、FD に対する教員の積極的な姿勢の証左と言えます。また、南山大学教員の教育に対する高い意識を示すものです。

現在用いている授業評価の実施方法に関して、様々なご批判があることは承知しています。たとえば今回、受講生数の多少によって、平均評定値に差がみられました。このような教員の左右できない様々な要因によって、結果が影響される可能性が、たびたび指摘されています。実施時期も、より早い段階にできれば、授業評価への回答者が自ら出席している授業の改善につながられるでしょう。また、設問項目もさらに検討が必要です。

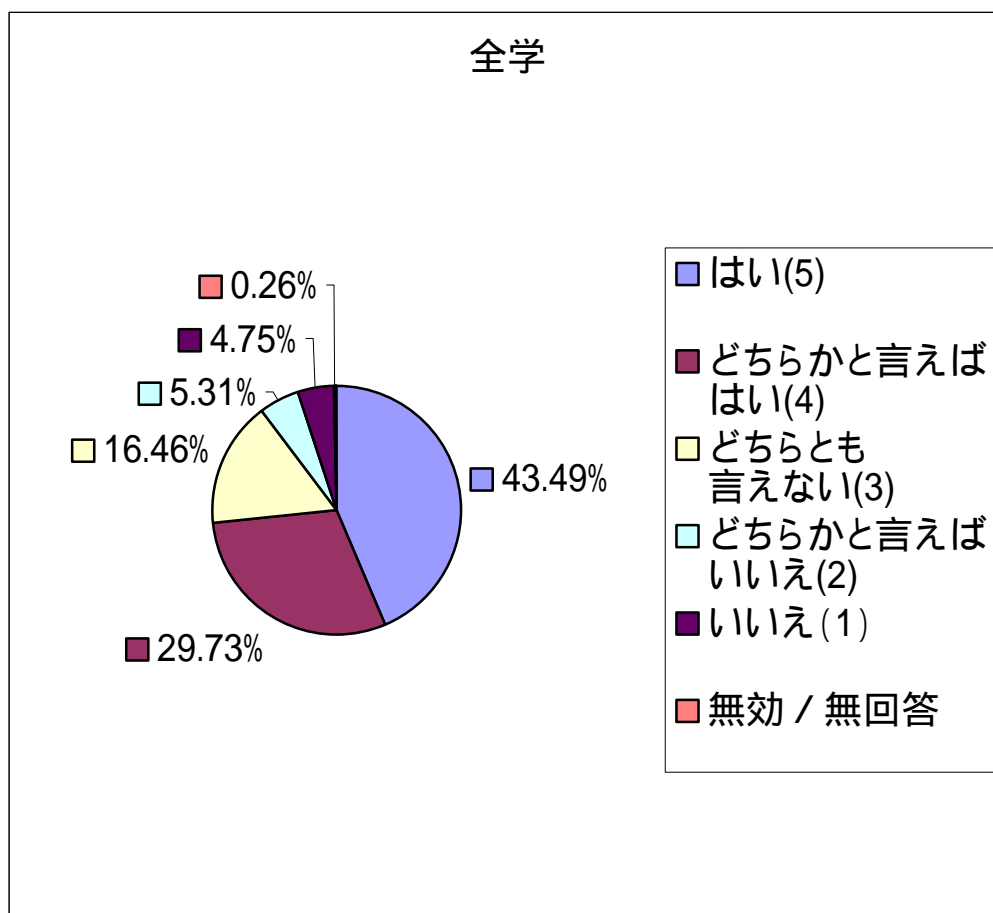
FD 委員会では引き続き、今後の授業評価のあり方を協議していきます。どうぞご遠慮無く、ご意見をお寄せ下さい。

授業評価は、結果を授業改善につなげていくことこそが重要です。このため自己点検・評価委員会や FD 委員会が主催して、授業研究会、あるいは授業の相互見学、教育機器の個別講習など、既にいくつかの企画を実施しています。しかし、もっとも強力な要素は一人一人の教員の自覚と、教員相互の日常的な研鑽であろうと思います。教員のみなさん、学生のみなさんの引き続いてのご協力をお願いします。

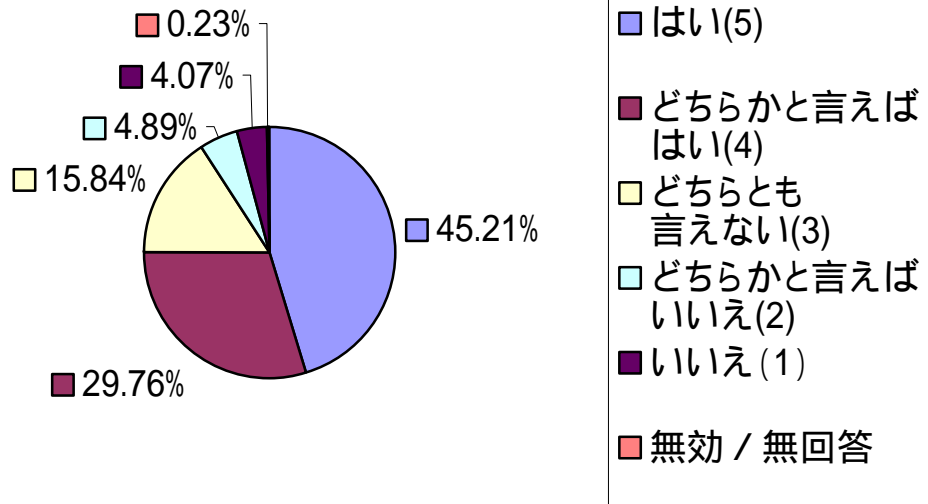
以上

「満足度」(設問項目番号18)の実数分布

キャンパス別	総数	はい(5)	どちらかと言え はい(4)	どちらとも 言えない (3)	どちらかと言え いいえ(2)	いいえ(1)	無効/ 無回答
名古屋キャンパス	20777	9394	6183	3291	1016	845	48
	100.00%	45.21%	29.76%	15.84%	4.89%	4.07%	0.23%
瀬戸キャンパス	5957	2232	1766	1109	404	426	20
	100.00%	37.47%	29.65%	18.62%	6.78%	7.15%	0.33%
全学	26734	11626	7949	4400	1420	1271	68
	100.00%	43.49%	29.73%	16.46%	5.31%	4.75%	0.26%



名古屋キャンパス



瀬戸キャンパス

